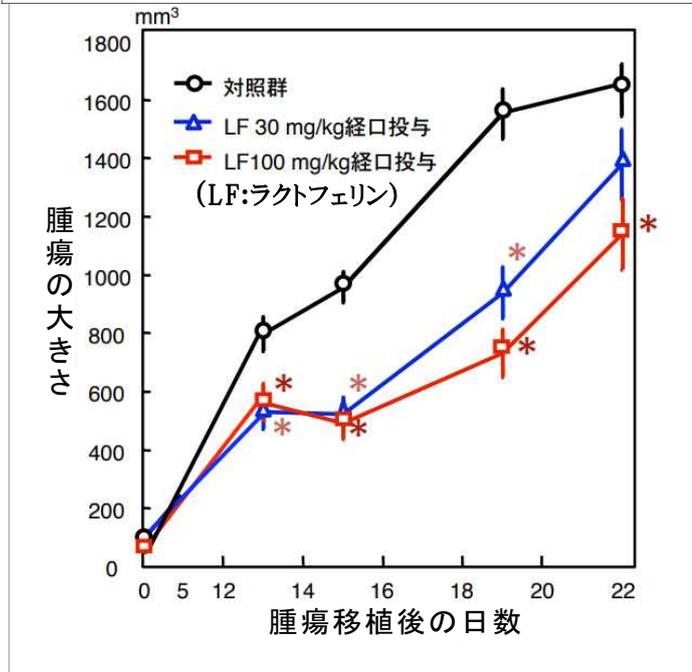


「コロナウイルス」対策に期待！！ ラクトフェリンの量の差

「ラクトフェリン」が「大腸癌」の成長率を抑える効果



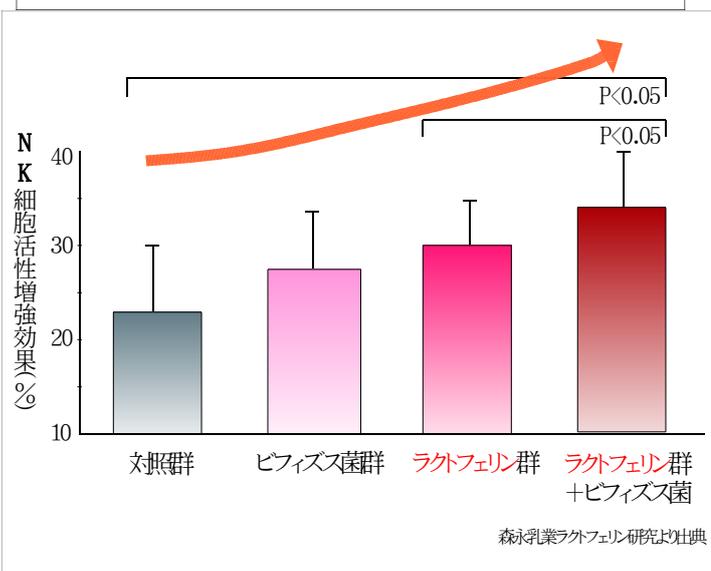
森永乳業株式会社 栄養化学研究所より出典

「ラクトフェリン」は対照群と比べると、摂取量が多い場合（赤線）、経過日数 13 日より、大腸癌の成長率が低下。（左図）経口摂取で「免疫」を高める事が確認されています。

コロナ渦の自粛生活での免疫低下、更に加齢による免疫低下が懸念されます。

以上の事から「コロナウイルス」対策として「ラクトフェリン」の効果が期待されています。

「NK 細胞」活性の増強に対するラクトフェリン+ビフィズス菌の併用効果



森永乳業ラクトフェリン研究社出典

「腸管免疫」を活性化する「ラクトフェリン」を「乳酸菌」と同時に摂取すると、単独で摂るよりも免疫の最先端で働く「NK 細胞」が活性化されます（左図）。

「ワクチン」を接種すると、リンパ球の働きにより「抗体」が産生され「免疫」ができます。



高齢者は「抗体」の産生が充分に行われないために、ワクチン効果が低いと言われています。

そこで、ラクトフェリン+乳酸菌、「抗体」の材料であるアミノ酸「リジン」+「グルタミン」亜鉛+ビタミン A などの「栄養チームで免疫活性化」させる事がワクチン効果(抗体価)を高める方法です。